

衆議院小選挙区選出議員選挙 選挙公報

神奈川県選挙管理委員会



総務副大臣兼内閣府副大臣
さかい学
自由民主党

大切なものは、実現すること。

アベノミクスの「三本の矢」そして「新三本の矢」政策が目指しているもの、それは日本最大の課題である人口減少、少子高齢社会への対応です。コンパクトシティというまちづくりの方針を示し、医療介護の改革を通じて持続性を担保しながら、労働力不足を補うICT技術などの活用で一人ひとりの生産性向上「生産性革命」を図る。活躍するチャンスと場を増やす。私たちは日本の課題に正面から立ち向かい、この「人づくり革命」を通じて、これまで以上の実現力で答えを出します。ひたすらに、平和で豊かな日本のために。次世代のために。

この国を、守り抜く。

日本の活力ある経済を守り抜く

- ICT技術を生かし、一人当たりの生産性を上げて、人手不足に対応する生産性革命の推進
- 観光立国をはじめとする成長戦略の強力なる推進
- 引き続き雇用を確保し、給与アップにつなげ、安心して消費できる「正の連鎖」を目指す
- IoT、ビッグデータ、AIなどの技術を組み合わせて、新しい付加価値を生み出し、今後の成長産業へと育成
- 都市農業の推進と地域の交流にもつながる地産地消の奨励

日本の安全・安心を守り抜く

- 北朝鮮の核・ミサイルの脅威に対して、国際社会と連携して北朝鮮の政策転換を迫る
- 日米同盟の下、抑止力を強化するとともに、24時間警戒監視体制を継続
- 自然災害時の人的被害ゼロを目指し、ハード整備とともに、情報伝達・避難方法など、ソフト面の整備を急ぐ
- 国際社会において、格段に上がった日本への信頼度・存在感と総理の発言力を活用し、国益の最大化を図る
- 日本が直面している困難や課題に鑑み、現代の実情に合った憲法へ

日本の豊かな生活を守り抜く

- 少子高齢社会・人口減少社会の到来という日本の社会を襲う構造変化に対応する医療・介護などの社会保障システムへ改善
- 多様な生き方、生活環境に合わせて、男性も女性も選択の幅が広がる働き方改革の推進
- 社会資本の老朽化に対応し、維持管理の徹底と確実な更新
- ふるさと納税拡充、ICT技術の活用、外国人観光客の誘導をはじめ、地方へのチャンスを提供し、自らの地方創生を支援

日本の伝統・文化を次世代につなげ、「落とした財布が戻ってくる」国であり続ける教育を推進



さかい(坂井)学 プロフィール

昭和40年9月4日生まれ
▶リトルから大学卒業まで野球漬けの日々
▶東京大学法学部卒
▶松下政経塾(10期生)時代に、熊本県などで地域づくり活動
▶政経塾卒業後、熊本県で土壌浄化法による汚水処理を目指す会社で働きながら、自然農を実践
▶東日本大震災直後に復興支援グループ「ゆいっこ横浜」を立ち上げ、地元仲間たちと募金や炊き出し、物資提供などの活動。
▶衆議院議員3期

- 国土交通・復興大臣政務官として東北の復興を推進。
- 外国人観光客誘致のため、ビザ緩和や免税制度の改正により、観光地での消費増に貢献
- 民間の公益活動を支援するため、議員立法で休暇預金活用法案を成立。
- 総務副大臣として官製はがきを国際郵便で使いやすくするため、8円切手を来年の「国際文通週間」に合わせて発売予定。
- 内閣府副大臣として、マイナンバーカード取得促進キャンペーンをこの11月より開始。

元 財務副大臣
元 国土交通大臣政務官 兼 復興大臣政務官
元 国土交通部長
平成23,24年度 横浜市立豊田中学校PTA会長
家族は妻と娘3人。趣味は野菜づくり。
好きな言葉は「雑魚は雑魚なり大海を泳ぐ」。

www.sakaimanabu.com

野党と市民の共同で新しい政治をつくる 消費増税10%は中止 8時間働けばふつうに喜らせる社会を



日本共産党
横山せいいち
よこやま せいいち

「戦争する国づくり」NO 8時間働けば普通に暮らせる社会を

8月に参加した原水爆禁止世界大会で、被爆者は国連で核兵器禁止条約が採択されたことを喜び、日本政府が条約に参加しないことに怒っています。「戦争があつたから核兵器が使われた。戦争をしない日本をつくって」と訴える被爆者の思いにふれ、核兵器禁止条約に参加する政治の実現へ決意をあらわにしました。

野党と市民の共同で、憲法、くらし、雇用を壊す安倍政権の暴走政治にストップをかけ、憲法をかす新しい政治の実現と、核も基地もない平和な日本をつくりまします。

党5区 区政対策委員長
略歴 1971年横浜市生まれ。東京工業専門学校卒業。平和の日本をめざす日本共産党に共感し18歳で入党。現在、党県委員、党横浜西南地区副委員長。趣味は読書、ドライブ、サイクリング、スキー、キャンプ。横浜市戸塚区在住。

「森友・加計学園疑惑」の徹底説明

安倍首相夫妻がかかわる「森友・加計学園疑惑」と国政の私物化。世論調査では国民の7割が首相の説明に「納得できない」と答えています。真相究明にフタをすることは許されません。

消費増税10%は中止

増税するならば「アベノミクス」で大儲けをあげている富裕層と大企業に自分の負担を求めます。大軍拡と大型開発中心の予算にメスを入れ、医療、介護など社会保障、教育、子育てなど、格差と貧困の是正につながる予算を増やします。中小企業と農業を守ります。

8時間働けばふつうに喜らせる社会を

「残業代ゼロ法案」を許さず、長時間労働を法律で規制し、過労死を根絶。非正規から正規への流れをつくり、最低賃金を大幅に上げます。

海外で戦争する国にする

憲法9条改憲は「NO」

安倍政権が強化した安保法制、秘密保護法、共謀罪は、すべてが「海外で戦争する国づくり」の道具立て。三つの違憲立法は廃止し、民主主義と立憲主義の回復を世界に誇る日本の幸。憲法9条を守り、平和外交をすすめます。

比例代表は日本共産党と書き

日本共産党を伸ばし安保法制廃止、憲法守る政治へ



希望の党公認 小池百合子政治塾一期生
吉岡けんじ
39歳

一人一人が「希望」に満ち溢れた社会へ

- 1 景気回復と消費増税凍結**
景気回復の実感が伴わない中で増税には慎重にならざるを得ません。2019年10月に予定されている消費増税10%引き上げについてはいったん凍結し、実体経済の動向を注視すべきと考えます。財政規律を維持するために赤字国債の発行は限定的とし、むしろ成長戦略に注力し、税収増を実現させます。
- 2 共働きの応援(待機児童対策)**
私は二児(長男5歳・長女1歳)の父親です。仕事をもっていた妻とともに過酷なホカッ(子どもを保育所に入れるために保護者が行う活動)も経験しました。待機児童、保育児童問題は国家ぐるみの取り組みを行うべきです。また、企業に対して在宅ワークなどを推奨し、「働くこと」と「育てること」の両立を実現させます。
- 3 税の有効活用(ワイクスベンディング)**
税の無駄遣いを絶対に許しません。成長分野、福祉分野、教育分野など「納得できる」税金の使い方を追求します。
- 4 しがらみからの脱却**
特定の団体だけが利益を得る、いわゆる「既得権益」は許しません。すべての国民の利益を最大化する行政改革、規制緩和に取り組みます。
- 5 スポーツで人生を豊かに**
吉岡けんじは「スポーツ(ラグビー)」に育てられた人間です。2019年ラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック、パラリンピックが成功を収めるために全力を尽くします。また、子供からお年寄りまで楽しめる生涯スポーツの普及にも取り組んでまいります。
- 6 憲法改正**
103ある条文を一つ一つ精査していく必要性があります。中には時代に則していないものもあり、そうしたものを是非々々で改正していくべきと考えています。例えば、プライバシー権や知る権利なども基本的な人権として規定されていないのも時代に則しているとは言えません。道州制や有事の際の議員任期の延長等も盛り込むべきです。
- 7 徹底した情報公開と行政監視**
元報道記者である吉岡けんじは、密室政治、隠れい体質を看過するわけにはいきません。国民の知る権利を守り、行政の監視役としての政治家の本分を全うします。
- 8 インターティブな日本へ**
日本版シリコンバレーの建設を目指し、ベンチャー企業の育成や起業を積極的に後押しします。日本から世界に通用する多くの企業を生み出していきます。同時に優遇税制を撤廃し、インフラを整備して外国企業の誘致や海外からの投資を促し、「強いニッポン」を復活させます。

■神奈川県出身(父が日立製作所に勤めていた関係で、幼少時代は戸塚の自宅へ通う)
■神奈川県立大船高等学校卒業 ■青山学院大学経営学部卒業(体育会ラグビー部副将)
■英国国立ランバラ大学大学院卒業(国際政治学修士号取得)
■留学中にブリュッセルのEU本部インターンシッププログラムに参加
■修士論文「トルコによるEU加盟の可能性と影響について」
■民放テレビ局報道部(記者職)、投資ファンドなどを経て現在、コンサルティング会社取締役。

吉岡けんじホームページ
yoshiokakenji.com

吉岡けんじの考え方

吉岡けんじの想い

私には5歳の息子と1歳の娘がいます。夜、仕事から帰宅して子供達の寝顔を見ていると、この幸せがいつまでも続いて欲しいな、と思います。今年も長男の運動会に行きました。私の両親、妻の両親も駆けつけました。親たちは孫の成長を見るのが生き甲斐のようです。こうした「平凡な幸せ」を守っていききたい。そして、子供たちには夢をもってもらいたい、親たちには人生をもっと楽しんでもらいたい。若者たちには努力してチャンスを掴んで欲しいと思います。そして、失敗してもまた挑戦できる寛容な社会、まさに「希望」のある社会にしたいのです。